

データヘルス・予防サービス見本市2017

2017年12月13日(水)

「コラボヘルス最新事例～企業の視点、健保の視点～」

コラボヘルスとは



特定非営利活動法人 健康経営研究会 岡田邦夫

生活習慣病から社会環境病へ

疾病の推移		人の対応	
↓ 技術革新の進歩 ↓	生活習慣病	自分の努力で何とか←セルフケア	個人
	生活習慣病 日々の生活習慣が	頑張る、我慢する、耐える (食べ過ぎ、飲みすぎ、吸いすぎ、等)	
	生活・労働環境病	自分の努力だけでは←ワークサイトケア	環境
	心身症 ストレスが体の症状に	いつでも、どこでも、好きなだけ食べることができる 便利、満足感、楽である、がまんしない	
	社会環境病	世の中がそうなっている←ソーシャルケア	社会
メンタルヘルス不調 心の不調が体にも	みんなが歩かない、みんなが車に乗っている 耐えがたい巨大な環境ストレスに押しつぶされる	社会のケア	

作業関連疾患の位置づけ

労働生産性↑

大
作業要因
小

職業病

作業
関連
疾患

疾病の発症・増悪の因子

として作業に関連した要因
が考えられる疾患の総称

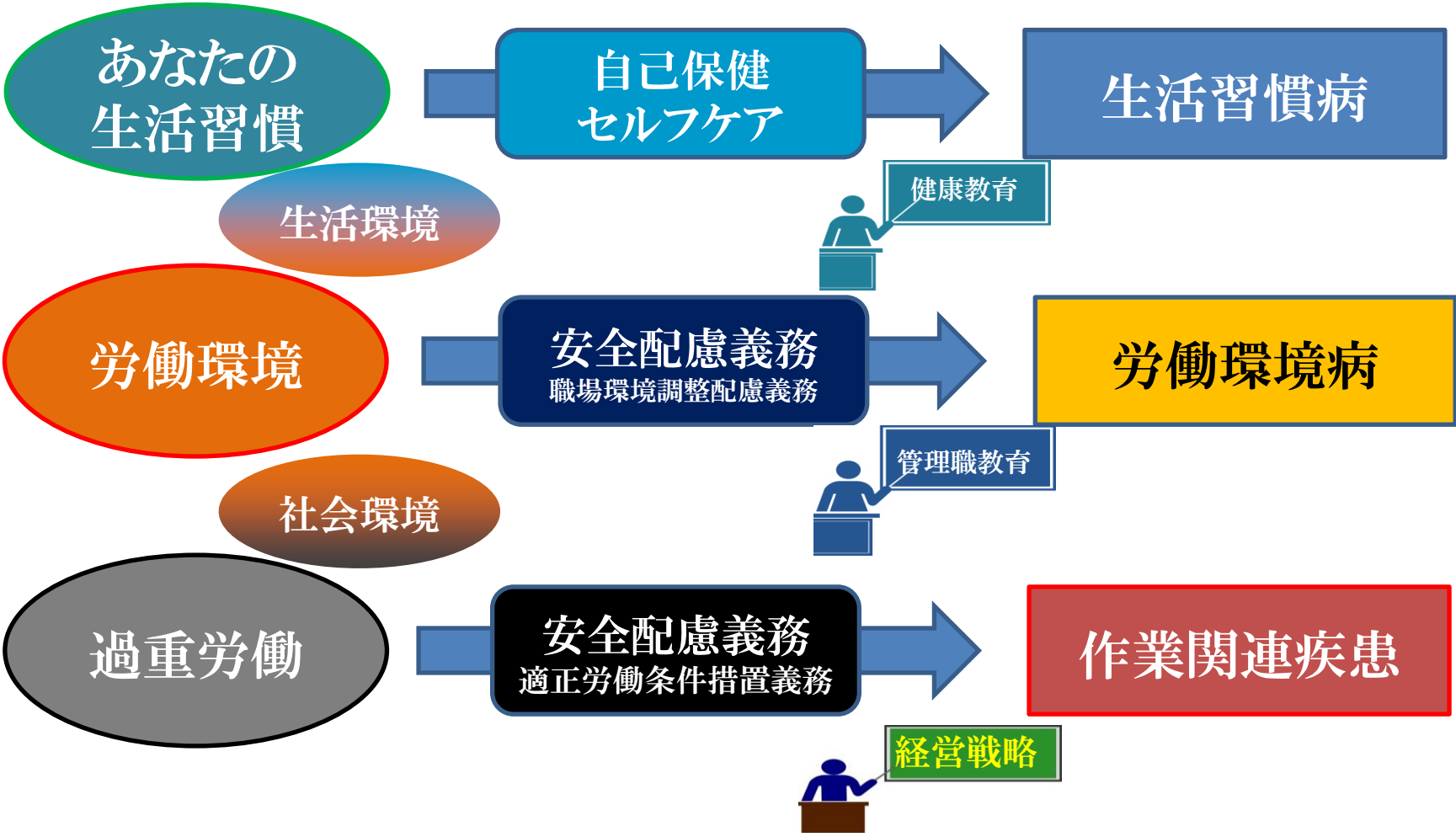
過重労働

生活習慣病

⇒医療費

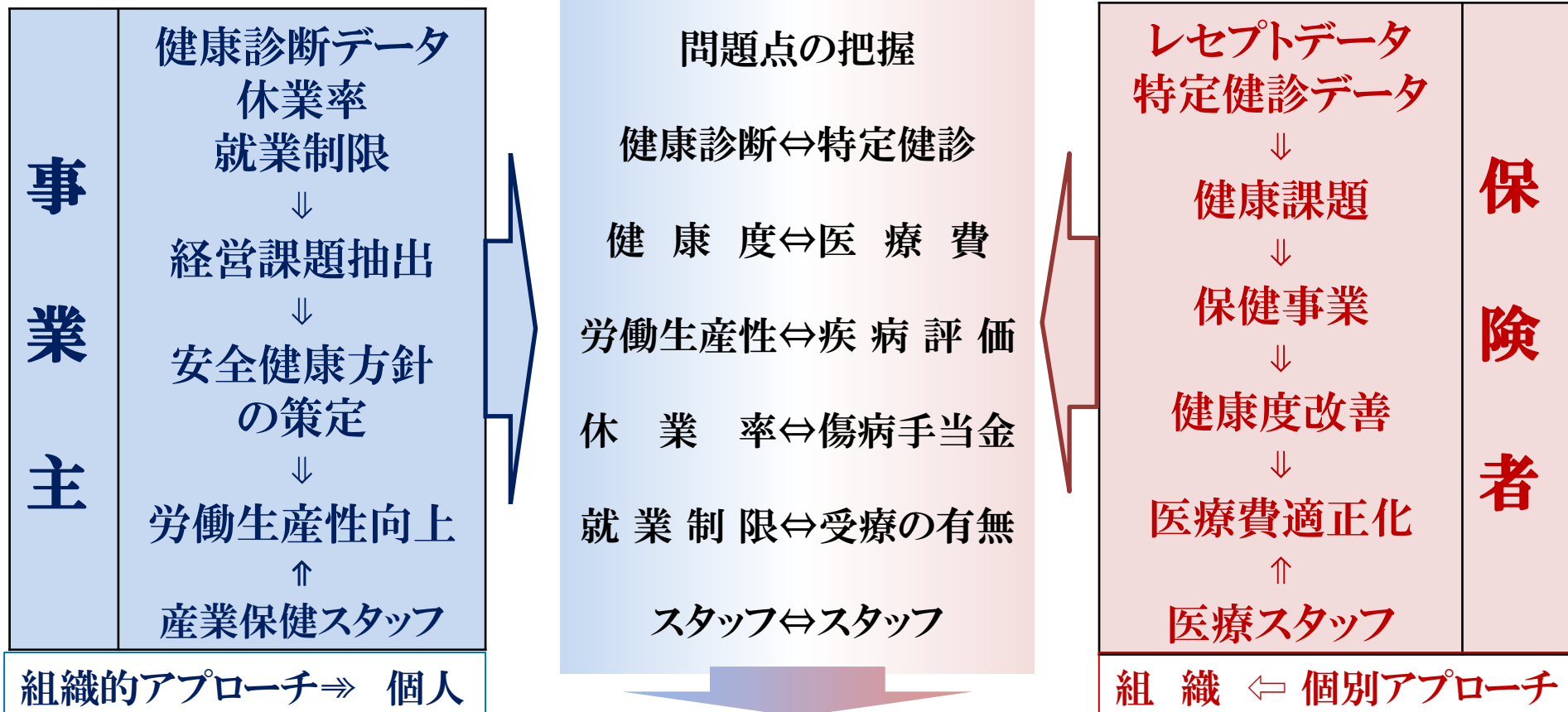
小 個人要因 大

働く人の病は？



事業主と保険者の連携

お互いの強みを生かした連携



組織的戦略 = 個別対応
ポピュレーションアプローチ = サブポピュレーション・ハイリスクアプローチ

企業における健康事業

1. 雇用期間、労働時間、職場という拘束下における健康習慣の継続性

- (例)
- ・職場体操による体力評価の向上
 - ・通勤時における歩行と高血圧発症リスクの減少
 - ・社員食堂におけるヘルシーメニュー

健康・体力

2. 健康投資－費用対効果、費用対便益

- (例)
- ・企業における内部利益の確保 (Low cost High return)
 - ・企業存続のための投資－労働生産性、医療費等
 - ・社会責任投資の視点-企業価値

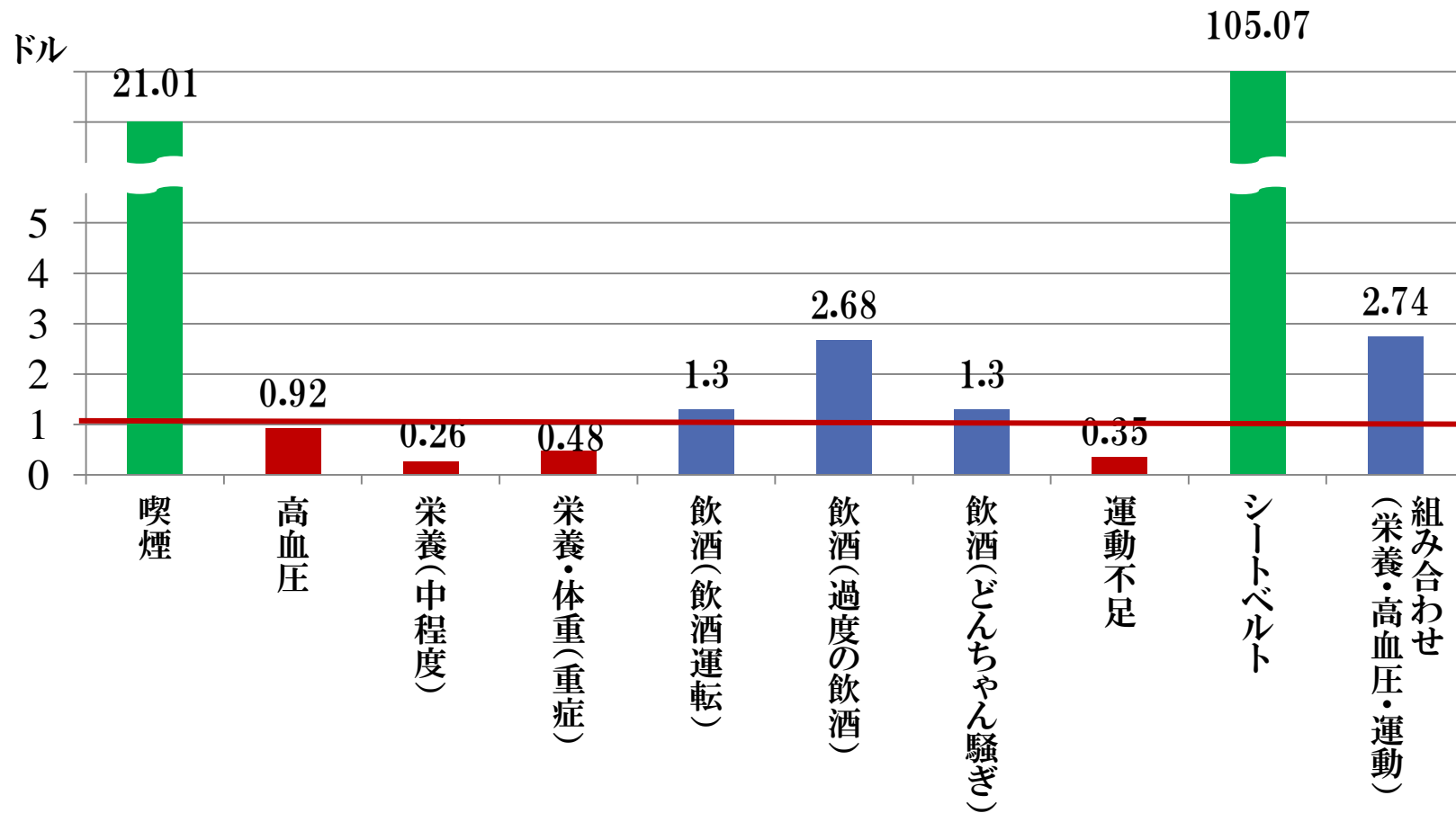
労働生産性

3. 企業における健康プログラム

- (例)
- ・健康づくり事業としての展開 (商品価値)
 - ・リクルート (新規採用等におけるメリット)
 - ・企業風土の醸成-地域からの信頼

職場モラル

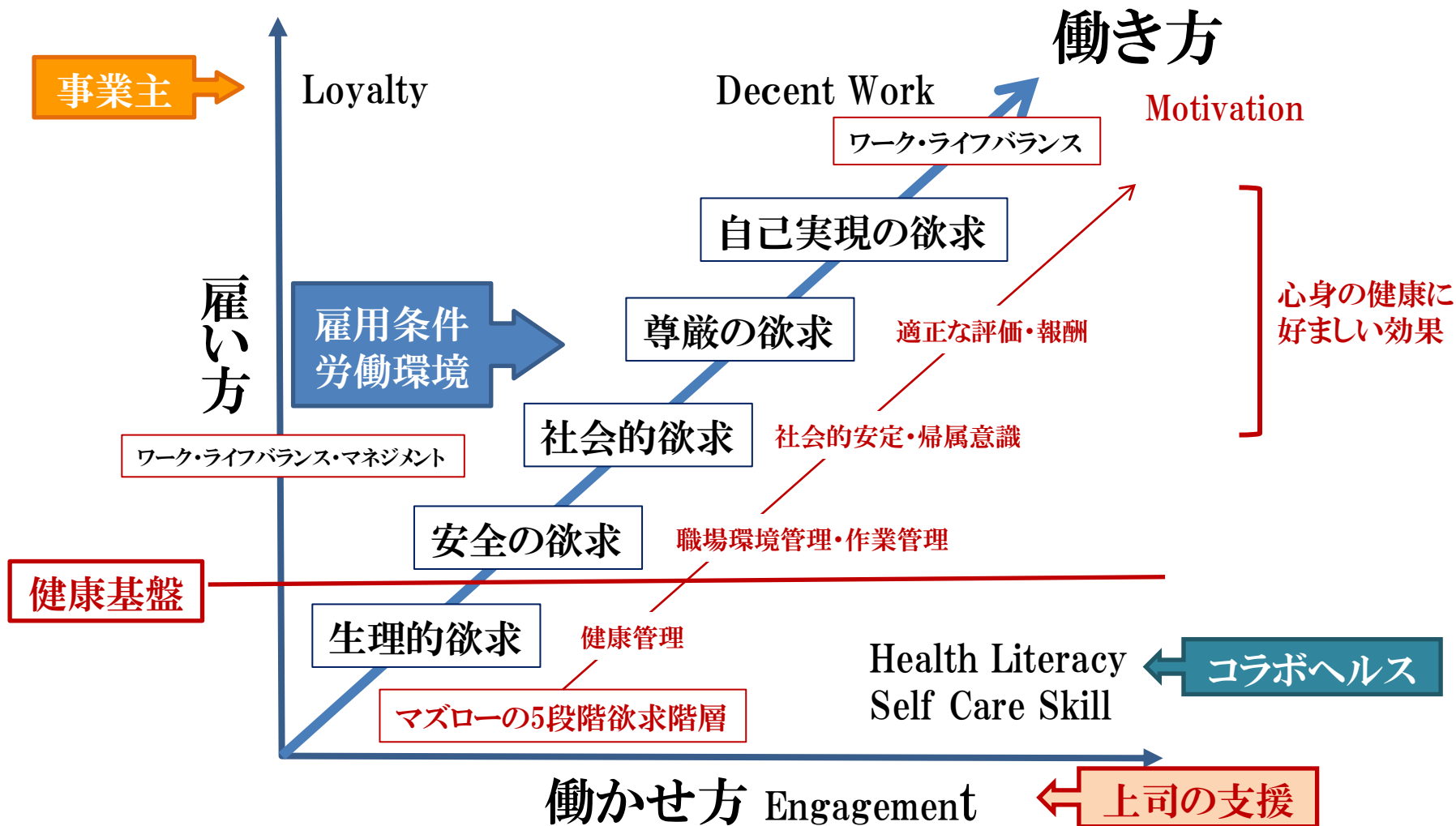
ヘルスプロモーションの1ドルあたりの投資効果 (20~64歳)



割引率4%で計算

(Michigan Department of Public Health, 1987)

働き方に必要な要因



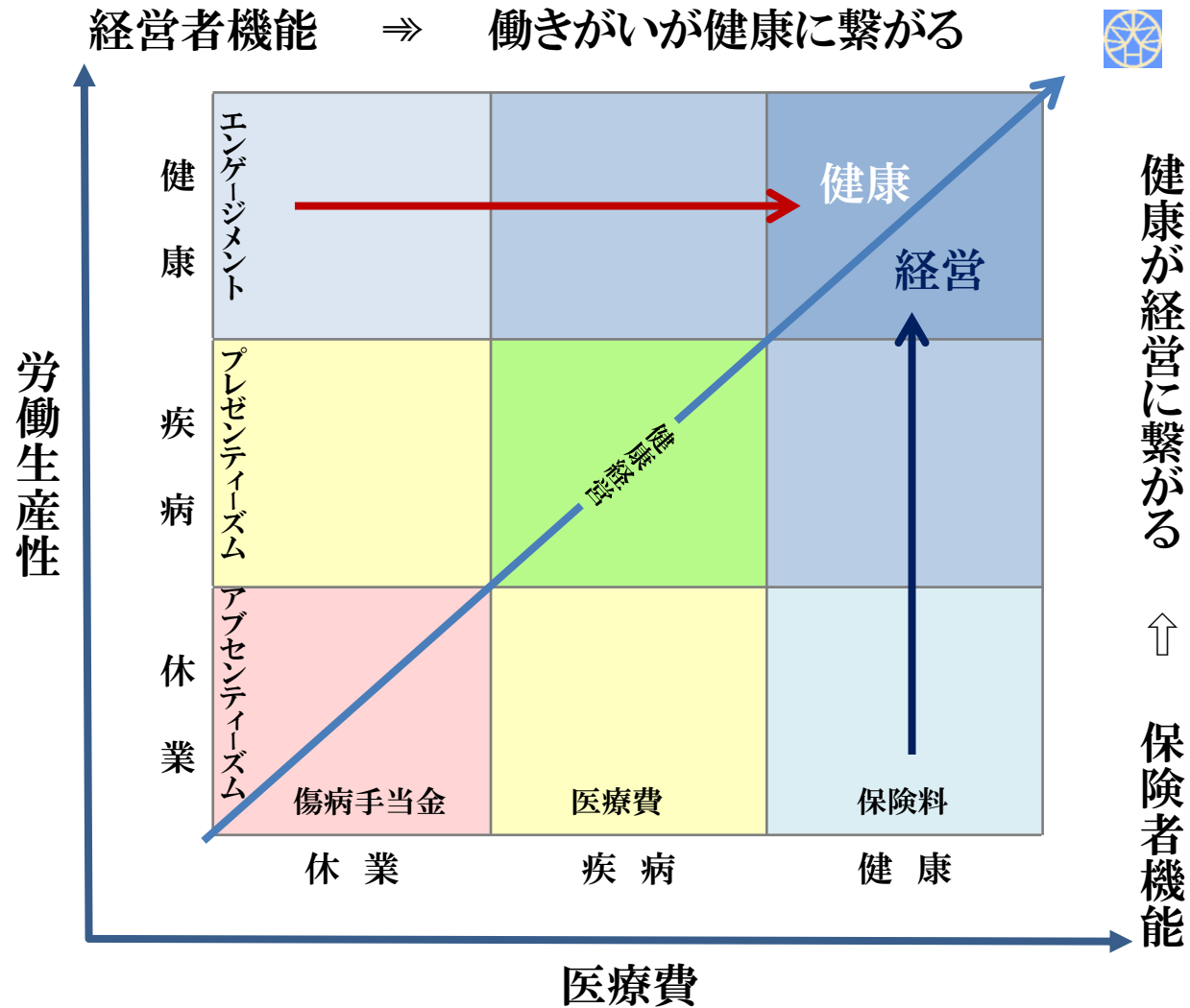
コラボヘルス

コラボヘルスとは

- コラボヘルスとは、事業主と保険者がそれぞれの立場・役割で協働を推進していくことである
- 事業主との協働(コラボヘルス)は、これまでの取組の経緯や事業所の状況を踏まえることで推進され、保健事業の実効性を高める
- 特に、被扶養者への働きかけでは、健診機関や生活基盤である市町村等との協働も意識する

コラボヘルスマネジメントとは、コラボヘルスを事業主と保険者がそれぞれの強味を生かして、効果的に健康づくり事業を運営すること、であると考えられる。

労働生産性と医療費



健康経営の推進

従業員の健康づくりは、コストではなく投資—健康づくり事業

